

国語科学習指導案

4年1組 36名 指導者 上原孝夫

本授業では、以下の検証を行うものである。

構造化する「思考スキル」を活用し、文章様式の違いや構成の特徴に気付かせたり、付箋紙を用いて描写的・説明的な言葉を広げたりすることは、自分の調べたことや考えたことがはっきり伝わるよう内容や構成を工夫して、分かりやすい記事を書く手立てとして有効であったか。

1 単元 新聞のとくちょうと作り方を知ろう「新聞を作ろう」

2 目標

新聞の特徴と作り方を知り、取り上げたい話題を決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができるようにする。

3 単元の評価規準

- 新聞の特徴を知り、進んで新聞を作ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 伝えたいことが明確になるように文章（本文やリード文）を書いたり、内容の中心が明確になるように適切な見出しを付けたりしている。【書く能力】
- 記事の分量や写真・絵の大きさ、入れ方など効果的な使い方について考えている。【書く能力】
- 文章を読み返し、句読点を適切に打ったり、必要な箇所で行をしたりしているかなどを確認している。【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、新聞作りをするという必要感をもちながら、伝えたいことが明確になるように文章を書いたり、内容の中心が明確になるように適切な見出しを付けたりする中で、相手や目的に応じ、調べたことなどを読み手にも伝わるように、いきいきと描写的に書いたり、分かりやすく説明的に書いたりする力を高めることをねらいとしている。

教材「新聞を作ろう」では、まず新聞の特徴が押さえられている。伝える内容や読み手によって様々な種類がある新聞について、共通の特徴を理解することができるようになっている。次に、新聞の作り方が作成の手順に沿ってポイントが押さえられている。新聞の内容と形式、記事の下書きや割り付けなど、「わり付け例」を参考にしながら作成することができるようになっている。

子どもは、「読書生活について考えよう」（5月）の学習において、取材、構成、記述について学習し、調べたことを報告する文章を書く経験をしてくている。また、「かるた」（3年下巻）の学習では、小見出しを付ける経験をしてくている。

そこで、本単元では、身近な話題（学習内容や学校生活）で書いた調査報告文を基に、四人グループで一つの壁新聞（調査報告新聞）を作成する学習を進めていきたい。まず、実際の新聞を基に、比較する「思考スキル」を活用しながら新聞の特徴を理解させていく。その後、新聞を作成する際に、構造化する「思考スキル」を活用し、事実部分や意見部分の構成を考えさせたり、適切な見出しを工夫させたりしていく。また、協同的な「学び合い」の中で、役割分担をしながら話し合いや活動を進め、一人一人が記事を書いてグループの新聞を作成することができるようにしていく。

ここでの学習は、第4学年『仕事リーフレット』を作ろうの学習で、目的に応じ、仕事内容を理由や事例を挙げながら文章で伝えたり、写真を効果的に用いたりする学習につながっていく。さらに、新聞への興味・関心が高まったり、日常的に記事の書き方に注意して新聞を読んだりすることが期待できる。

(2) 子どもの実態と指導

本学級では、多くの子どもが「書くことは楽しい」という意識をもって日記（経験報告文）など進んで書こうとする態度が見られる。しかし文章を書く際に、あまり相手や目的を意識していなかったり、文章様式に応じた書き方を理解していなかったりして「書くことは難しい」という意識をもっている子どもも見られる。また、語彙の量、書く速さ、文字の丁寧さにも個人差が見られる。

そこで、本単元では、「思考スキル」を活用させたり、グループで交流させたりしながら、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができるようにしていきたい。その際、これまでの学習を生かし、調査報告文の文章様式で書いた報告書を新聞記事に書き換える活動を取り入れ、本文やリード文、見出しなどをいきいきと描写的に書いたり、分かりやすく説明的に書いたりすることの良さや楽しさを味わわせていきたい。

5 指導計画（総時数 7 時間）

過程	主 な 学 習 活 動【 評 価 規 準 】	時間
課題をつかむ	1 持ち寄った新聞を読み、新聞の内容や形式に興味をもつ。 2 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。 記事や紙面を工夫して、分かりやすく読みたくなる調査報告新聞を作ろう。 【関：新聞を作ることに楽しみを感じながら、見通しをもって学習計画を立てている。】 持ち寄った実際の新聞を基に、感想を自由に話し合わせたり、前単元の調査報告文の学習を振り返らせたりして、調査報告新聞作りへの関心をもたせるようにする。また、教材文を読ませ、新聞の特徴や作り方を学習することを確認して、見通しをもたせるようにする。	1
情報を読みとる	2 新聞の内容と形式を調べ、どのような記事があるか、どのような書き方をしているかなど新聞の特徴を考える。 【書：一枚の紙面の様々な記事には、書き方の違いがあることなどに気付いている。】	1
	3 新聞の作り方の手順を確認し、どのような新聞を作るか考える。 【書：相手・目的意識を明確にもち、取り上げる内容や記事の量等を決め、作りたい新聞のイメージをもっている。】	1
	4 新聞の特徴に基づいて、調査報告文を新聞記事に書き換える。 【書：文章の組み立てや書き方の違いを考えながら、記事を書いている。】	1
	5 書いた記事を基に、適切な見出しを書く。 【書：伝えたいことの中心が明確になるよう、適切な見出しを考えている。】	1
	「思考スキル」活用させたり、グループで交流させたりする中で、新聞の特徴に気付かせ、新聞作りに生かせるようにする。役割分担をして活動を進める際に、付箋紙を活用させ、いきいきと描写的に書いたり、分かりやすく説明的に書いたりできるようにする。	本時
主体的に表現する	6 記事を推敲したり、割り付けを工夫したりして、新聞を仕上げる。 【言：文章を読み返し、句読点を適切に打ったり、必要な箇所で行をしたりしているかなどを確かめている。】 グループで役割分担して記事を推敲させたり、話し合っって割り付けを工夫させたりして新聞を仕上げさせるようにする。完成した新聞を掲示し、付箋紙を活用して感想を交流させる中で、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができたことを実感できるようにする。	1
	7 仕上がった新聞を読み合い、感想を交流する。 【書：友達の表現の良さを見付け、感想を述べ合っている。】	1

6 本 時（5／7）

(1) 目 標

読む人を引き付け、伝えたいことの中心が明確になる見出しを書くことができるようにする。

(2) 評価規準

読む人を引き付ける言葉を用いながら、書いた内容の中心が明確になるように、見出しを考えている。
【書く能力】

(3) 指導に当たって

導入では、記事には見出しが必要であることを「速読クイズ」で実感させ、見出しの作り方をもっと詳しく調べてみたいという思いを膨らませていく。

展開では、記事をそれぞれ比較して分析的に読ませながら、どこに見出し作りのコツがあるのか調べさせていく。そして、見付けたコツを分類・整理させていく過程で、五つのポイント（「内容の中心を短く」「分かりやすく具体的に」「引き付ける言葉で」「平仮名を用いて読みやすく」「写真・図と対応させて」）の書き方を身に付けさせていく。その後、見付けた書き方のコツを参考に、各グループのトップ記事の見出しを考えさせていく。工夫させていく。その際、書いた記事を基に、グループ活動の中で「見える図」や付箋紙を用いて書く活動を進めさせていく。

終末では、書いた記事を友達と読み合わせ、感想を交流させる。この活動を通して、本時の学習の成果を振り返らせるとともに、書くことへの自信や楽しさを味わわせ、さらには、国語科での学びが実生活の中で生きてはたらくことを実感できるようにする。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
つかむ 見通す	(分) 7	1 「速読クイズ」に挑戦し、なぜ、新聞は短時間でも内容を捉えることができるのか考える。 〔・全部を読まなくても、ひと目で何が書いてあるか、見出しがあるから分かったよ。・見出しを読むと、記事を最後まで読みたくなるね。〕 2 学習のめあてと進め方を確かめる。 読む人を引き付け、分かりやすく内容を伝える見出しは、どのように書けばよいだろう。 〔・見出しをどのように書いたらいいのかな。・多くの人が読みたくなる見出しを書きたい。〕 3 モデル記事を基に、見出しのこつを見付ける。 〔「めざせ！新聞記者」見出し五つのポイント ①短く→一番伝えたい内容を10字程度で書く。 ②具体的に→キーワードを入れて、分かりやすく書く。 ③引き付けて→キーワードを並び替えたり、飾る言葉を付けたりして書く。 ④読みやすく→平仮名を入れて書く。 ⑤写真・図も→用いる写真・図の内容と対応させて書く。〕 4 見出しのこつを基に、各グループの新聞に載せるトップ記事の見出しを考える。 (1) 記事や写真・図を基に、見出しに入れる言葉を付箋紙に書き出す。(一人で：5分) 〔・この記事で一番伝えたいことは何かな。・「○○」は、見出しに絶対必要な言葉だ。〕 (2) 記事や写真・図を基に、付箋紙を操作しながら見出しを考える。(グループで：8分) 〔・付箋紙を並び替えると、一番伝えたい内容にぴったりの見出しができたね。〕 (3) グループで考えた見出しを発表し合い、感想を交流する。(全体で：7分) 〔・五つのポイントで書くと、伝えたいことがよく分かるね〕 5 教師の補説を聞く。 〔・見出しの大きさや色、写真・図の大きさを変えると、記事の印象が変わるね。〕
調べる	30	6 学習の成果をまとめる。 読む人を引き付け、分かりやすく内容を伝える見出しは、短く、具体的に、引き付ける言葉で書けばよい。 7 次時の学習への期待感をもたせる。 〔・次の時間は割り付けだ。楽しみだな。・見出しや写真の大きさを工夫したり、丁寧に記事を仕上げたりしよう。〕 2問の「速読クイズ」に挑戦させ、同じ内容でも見出しの書き方に工夫のある新聞が、分かりやすく読む人を引き付けることを実感させる。また、その工夫に気付かせることで、見出しを書くこつを見付けたいという思いを膨らませるようにする。 実際の新聞記事をモデルとして活用し、同じ内容で見出しや写真の違う記事を比較させ、見出しを書くこつに気付かせるようにする。 見出しを書かせる際には、構造化する「思考スキル」を活用させ、付箋紙を用いながら言葉や構成を工夫させることで、伝えたいことが明確になるようにする。 見出しを書かせる際には、同じテーマのグループで協同的な「学び合い」を行わせることで、書き方の工夫について焦点化することができるようにする。 ※ 読む人を引き付ける言葉を用いながら、書いた内容の中心が明確になるように、見出しを考えている。(付箋紙・ワークシート) ○ 書くことのできる子どもには、書いた見出しを推敲させ、いきいきした描写や分かりやすい説明の文を工夫させたりしていく。 ○ 書くことのできない子どもには、友達に尋ねさせたり、掲示資料や教師のモデルを参考にさせたりしていく。 書いた見出しを友達と読み合わせ、感想を交流させることで、書くことの楽しさや自信を味わわせるとともに、本時の学習が生きてはたらく力になっていることを実感できるようにする。 次時は、割り付けを工夫し、実際に自分の記事を仕上げることを知らせ、学んだことを生かして、分かりやすい記事を書こうとする意欲を高めるようにする。
まとめる・振り返る	8	